

平成 28 年度 第 3 回 稲城市海外姉妹都市検討市民会議 作業部会
議事録 【要点記録】

【開催日時】平成 28 年 9 月 29 日（木） 午後 7 時から 9 時 20 分

【会 場】地域振興プラザ 2 階 商工会中会議室

【出席者】■委員；出席者 6 人

- ・ 稲城市体育協会（中家 敬士氏）
 - ・ 稲城市教育委員会（城所 正彦氏）
 - ・ 稲城市青少年育成地区委員会正副委員長会（石橋 良生氏）
 - ・ 稲城国際交流の会（藤田 佑二氏）
 - ・ 公募市民（原 忠男氏）
 - ・ 公募市民（小山 良夫氏）
- <欠席>稲城市農業委員会（松本 一宏氏）

■行政

- ・ 事務局 4 人（企画部長（武藤 路弘）、企画政策課長（柴田 光洋）、
企画政策課計画調整担当係長（井田 聡）、企画政策課主事（新津 伸偉）

【開会】

部 会 長：皆さんこんばんは、お忙しい中、また夜分お疲れのところ、会議にご出席いただきありがとうございますとございます。平成 28 年度第 3 回稲城市海外姉妹都市検討市民会議作業部会を行いましたのでよろしく願いいたします。それでは、本日の資料につきまして、事務局より配布資料の確認をお願いします。

井 田 係 長：まず、本日ですが、松本委員からご欠席のご連絡をいただいています。また、石橋委員はお仕事の関係で 8 時頃に到着されるとの連絡を受けています。それでは、改めまして、配布資料の確認をさせていただきます。本日お手元に配布しておりますものは、7 点になります。

①次第

②資料 1：平成 28 年度 稲城市海外姉妹都市検討市民会議作業部会名簿

③資料 2：平成 28 年度第 2 回海外姉妹都市検討市民会議作業部会
（平成 28 年 8 月 30 日開催）

④資料 3：海外姉妹都市候補地検討リスト

⑤資料 4：フォスターシティ市との交流事業例

⑥席次表

⑦参考資料：平成 27 年度稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議
「主な意見の分類」（第 1 回作業部会での配布資料）

こちらは、傍聴される方がいらした際も同じ資料をお配りします。過不足等はございませんでしょうか。

【次第1】 前回のまとめについて

部 会 長：次第1『前回のまとめ』について、事務局から説明をお願いします。

柴 田 課 長：『前回のまとめ』についてご説明差し上げます。資料2をご覧ください。

〔資料2：『平成28年度第2回海外姉妹都市検討市民会議作業部会（平成28年8月30日開催）』に基づいて説明〕

部 会 長：説明が終わりました。何かご質問はございますでしょうか。

<質疑なし>

部 会 長：よろしいでしょうか。

<「はい」というご発言あり>

【議題1】 海外姉妹都市の候補地の絞り込みについて

部 会 長：それでは、議題1『海外姉妹都市の候補地の絞り込みについて』、事務局より説明をお願いします。

柴 田 課 長：続きまして、議題の1『海外姉妹都市の候補地の絞り込みについて』、私からご説明差し上げます。資料3『海外姉妹都市候補地検討リスト』をご覧ください。

こちら、前回の作業部会でアンケート調査によってご提案された都市と、作業部会の後に、委員の方からご提案された都市について、都市一覧の中に加えて、再整理した資料になります。このリストに記載されている21の都市が、現在俎上に載っている全都市でございます。

まず(1)、この作業部会での確定候補地としてフォスターシティ市がございます。フォスターシティ市が備え持つ諸条件が、比較検討を進める上での基準の1つになるかと思えます。

次に(2)、平成27年度の市民会議の議論の中で挙げられ、継続審議されている都市でございます。いずれも稲城市と、何らかの交流実績があった都市ということでございます。

最後に(3)、この作業部会の中で、委員提案に基づき追加された都市となります。

作業部会として、このリストの(2)及び(3)に記載された20の都市の中から、フォスターシティ市と併せて、市民会議での議論に戻していくべき都市があるのか、ないのか、1都市ずつ、その是非を決定していただきたいと考えております。

今までのご議論の中では、候補地は1都市ないし2都市とのご意見でございました。最終的に候補地となった都市については、市民会議での議論までの間、記載内容を補完してまいりたいと考えております。

補足としまして、今後のスケジュール感で申し上げますと、第1回目の市民会議において、現地視察を行った結果を踏まえて検討する事が決定されておりますので、平成29年度予算に事業費を計上する事を考慮しますと、年明け1月上旬には現地視察を行う必要がございます。現地との調整、航空チケットの手配等を考えますと、10月後半から11月初旬には市民会議を開催して行く必要があるのではないかと考えております。

それでは、絞り込みの進行についてでございますが、リストの順番に一都市ずつ、私からご説明させていただきますので、候補地とするかの是非を決していただければと思います。

なお、『参考資料』として『平成 27 年度稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議「主な意見の分類」』をお配りしております。平成 27 年度、4 回の市民会議の中で多く寄せられた意見、青少年健全育成の視点、教育交流の視点、過去の交流実績やきっかけの視点、英語圏の視点も踏まえた上で、都市の規模、稲城市との距離、治安も考慮して、ご判断いただければと思います。

それでは、進行につきましては、部会長にお願いいたしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

部 会 長：事務局から説明がありましたように、この議題につきましては、1 都市ずつその是非を決定していきたいと思っております。参考資料の通り、交流事業としては、教育、スポーツ、ホームステイ、文化交流等で、青少年の健全育成をしたいという目的の中で、どのような候補地が良いか、この参考資料に基づいて、1 つずつ候補地の是非を検討をし、決して行きたいと思っております。

委 員：絞り込みの方法について、事務局から提案があったのですが、実際にこのリストを見て改めて感じたことがあります。「稲城市との姉妹都市提携の意思」という欄、つまり実現の可能性という部分は、未だに前回の部会から引き続き不明の状態が続いています。この向うの意思というのは、非常に大切な要素になりますが、現時点では、どのくらい先方が関心があるのか、進めていく可能性があるかというのは分からない状態にあります。いずれにせよ、絞り込みはしないとイケないのですが、今の状態では、いきなり絞ることはできないのではないかと思います。今、フォスターシティ市を入れて 21 の都市がある中で、最終的に実際に海外に視察に行ける可能性があるのが 1 つか 2 つか、多くて 3 つという感じで考えると、一挙にそこまで絞って行くというのは、今の状況では難しいと思っております。そこに行きつくまでの間に、1 つのステップを入れる。つまり、21 都市のロングリストから、6 都市か 7 都市くらいのショートリストへ今の段階での条件で絞っていき、それについては、もう一度相手方の在日の在外公館や、現地の協会などにコンタクトを取り、姉妹都市の可能性を確認した上で、そのショートリストからさらに絞り込みをした方が現実的ではないかと思います。これは提案された方からの意見もお聞きしたいところなのですが、私自身も間接的なものを含め 5 都市ほど提案していて、前回から課題に残っている「どのくらい現実的に現地の方の意思があるか」ということを調べるには、前にも議論に出たレターのようなものが必要です。そういうものを使って、実際に在外公館などに接触をしてみ、どれくらい可能性があるかということ、次の重要な情報として加えた上で絞るというようなステップが必要ではないかと思います。今ここに書かれている情報だけで、「駄目」、「良し」と絞って行く方法はかなり乱暴な絞り方ではないかと思います。

柴 田 課 長：絞り込みの方法でご提案いただいた部分なのですが、大使館などへ稲城市との姉妹都市提携の意向を確認していくという検討については、この間やってきたところであり、実際に具体的にご提案をいただきながら、外務省等にも確認を取ってきており、今の稲城市の海外姉妹都市の検討の状況、市長がフォスターシティ市に行き、向うからオファーの

お話をいただきつつ、市民会議で検討している状況等をお話しましたところ、今の段階で、リストの都市に対し、外務省を通すような正式なルートで意思確認をするというのは、先方の国や都市に失礼になるので、やめた方が良いというアドバイスをいただいたところです。21の都市がリストに載っていて、市民会議に戻していくまでに、加筆して補完するというお話をさせていただいたのですが、今までの作業部会の議論の中で、1つないし2つの都市というようなお話もあったことから、まずこういう形でのアウトラインで少し絞り込みを掛けてみて、外務省にも意見を聞きながら、可能な限りリストを補完していくという形で、市民会議へ戻していくことを想定して、こういう形のお話をさせていただいているところです。

委員：今の話は、手順としては適当でないと思います。1つは、外務省に聞くというのが、どのくらい意味があるのかということです。実際に姉妹都市を結ぶときに、外務省は一般的な話なら言いますが、その国のどういう都市がどういう考えであるかということについては、基本的に知識も経験ありません。そうでなく、相手の国の自治体ベースで進めていく場合には、別な色々なチャンネルがあると思います。私自身もいつか繋がりががありますので、関係があるところを通じて調べているところでありまして、そうではなく、CLAIR（自治体国際化協会）のような組織であれば、もう少し現地に近いところにオフィスを持っていますので、そういうところに依頼して、間接的に、情報を集めることもできます。ですから、外務省に聞くというのが的外れであるという事です。

もう1つは、21都市のロングリストから一挙に2つ3つに絞り込んでいくには、情報が十分ないので、もう1回情報をどこかで集めて、もう少し補完しなければいけないということです。これは最初から私が言っている所ですが、ここで座っている段階では情報は一向に集まりません。集めるための努力をしなければ作業部会になりません。作業をして、新しい情報を付け加えて、それを基に、最後のリストを絞り込んでいくべきです。ロングリストからショートリストへ絞り込み、そして最終的な候補に挙げていくというのは、色々な分野でも通常やられている方法です。今載っている情報というのは、インターネットなどで調べればすぐに分かる情報であり、このような情報だけで決めていくというのは、今回のやり方にはそぐわないと思います。代替の方法を私がお示ししても構いません。

柴田課長：今回、外務省に話を伺うきっかけになった部分についてご説明します。資料3の後半に委員からご提案をいただいた都市がありまして、その都市の窓口になっているところが、外務省の部署となっていました。委員からご相談をいただき、事務局で、この海外姉妹都市を結ぶための窓口である外務省の部署に確認をして、先ほどのアドバイスをいただいたという経緯になります。このように、良く分からない状況から外務省に確認したという訳ではなく、きちんとこの都市の窓口は外務省のこの部署がやっているという状況の中で、委員のご提案に対する調査という中で、このような返事をいただいたものになります。

また、こちらの情報だと少ないというご指摘をいただいておりますが、1つには、27年度4回の市民会議のご議論で、皆様から色々な「こういった都市が良いのではないか」というご要望があった中で、先ほどの、青少年の健全育成の視点、教育交流、過去の交流実績、英語圏、と言うような部分もあり、また、都市の規模や、稲城市からの距離、治安の状況、

そういったご要望もあったところでもあります。こういう部分については、こちらのリストのアウトラインの部分からだけでも、一定の絞り込みはできるのではないかと考えています。ここで調査をやめるというのではなく、今回絞り込んでいただいた後にも、可能な限り、確認をしていって、リストを補完し、市民会議に返して行きたいと思います。作業部会として、今までのご検討いただいた内容を踏まえても、こういった絞り込みの作業というのも、十分作業部会の作業として認められるものではないかと考えています。

部 会 長：前回に、アンケート等で都市の提案が挙がって来ていましたが、それを今回この検討リストに挙げている訳ですね。

柴 田 課 長：前回挙がっているものよりさらに数は増えています。

部 会 長：個々の委員が別に提案された都市と言うのも入っているということですね。

柴 田 課 長：本日、第3回の作業部会までの間にさらにプラスして寄せられたご提案についても、きちんとこの中に反映させていただき、21の都市のリストとして並べていますので、ここから絞り込みをしていただき、市民会議へ戻して行きたいと思います。

部 会 長：前回の話の継続として、今回は都市の絞り込みをしながら前に進もうという事ですが、委員からは、もっと調べても良いのではないかとのご意見です。

委 員：そうではありません。私は絞り込みに反対している訳ではなく、絞り込みはしなければいけないけれども、今の限られたインターネットで集められる情報だけが述べられている現状の中では、私もそういう情報を見て調べた訳ですが、これでは肝心の相手の都市がどういう状況なのか、どういう関心を持っているのか、これから、我々が話をして可能性のあるのかというのが分かりません。そういう情報はインターネットには出ていないわけです。もちろん、委員がコンタクトをされたところは外務省を通じて現地からの要望があったところということで、少し違う内容はありますが、私は、この時点で、完全に都市を1つ2つに絞り込んでしまうというのは、むしろ可能性を切ってしまうことでもあるし、もしくは可能性が余りないところが残ってしまうこともあるので、ここは、二段階でやった方が良く考えてご提案をしているところです。

今、21の都市が出ていますが、これではあまりにも多いので、例えば6つか7つくらいに、今出ている情報を見ながら、絞り込んでいくけれど、ここでそれをさらに、2つ3つには絞れないと思います。絞るためには、インフォーマルにでも、在外公館などにコンタクトを取りながら、色々な形で集められる情報を加えていき、もう少しきちんとしたデータで6つなり7つなりの都市のショートリストを作った上で検討をして、更に絞って行った方が良いのではないかとご提案したいです。やり方の問題です。

部 会 長：前回のことから言いますと、ある程度の候補地が出てきたので、少なくとも、この中だけでも絞り込みできるのではないかと考えていたのですが、別個の候補地がまた別に出てくるのでしょうか。

委 員：このリストはこれでいいのです。これから増えることはありません。

委 員：これが全てだと考えています。時間的にもこれ以上は無理かと思えます。今は、この中で、どうやって絞り込みをやって行くかという問題です。具体的に私の方で提案し、外務省に確認したことも踏まえて作ったのですが、姉妹都市は結婚と同じで、こちらが提携の希望について伺うと、向うがその気になって、例えば具体的に「それでいいですね」という

ことになってしまう可能性もあるので、一応、こちらからも絞り込む必要はあると思います。私の方で提案した都市については、各都市のウェブサイトがありまして、どのような都市なのかという情報が載っていて、今調査を進めている所です。ただし、例えばトルコの都市などは、トルコ語でしか出てこないという状況なので、十分ではありませんが、ある程度の資料は集めています。現状はありますけど、どうしてもここで決めなければいけないということであれば、それなりに、今の段階では、お話しします。

部会長：27年度の検討で特に必要性を感じているのは、青少年の健全育成のための交流で、その条件の中では治安の良いところ、安心して行ける場所、衛生状態がどうかなどが書かれていますので、その辺の条件を比較しながら絞り込みができるのではないかと思いますので、いかがでしょうか。

委員：そういう条件を基にしてリストアップした都市だと判断しています。しかし、程度の問題もありますので、比較してどちらがどうなのかという方法の絞り込みは良いと思います。

部会長：そういう形でやってよろしいでしょうか。

委員：せめて、委員のお二人がご提案されたものと言うのは、俎上に載せるに当たっては、ある程度確信的な物も掘っていると理解をしているのですが。

委員：もちろんです。

委員：そうであれば、絞り込みの作業として、お二人の意見をお伺いしながら進めていくというのはあって良い話だと思います。

委員：委員の話は、全体の20の都市の中から2か所だとか1か所を選ぶというのは少し早いという気がするということですが。

委員：リストの情報も含め、今の段階でどういう状況なのかというのを、私たちも知りたいと思います。

委員：少し話がかみ合っていない所が有ると思うのですが、絞り込むことについては、私も全く問題ないと思います。今回やらないと、次回、何をどうするのかという話になるので、今回絞らざるを得ないのですが、最終的に2つ3つというところに持って行くのは、今回では無理だろうということを申し上げています。

委員：ご提案されたということは、キーパーソンがいたり、交流の実績やきっかけがあったり、いわゆる理由付けがされるものが挙がっているのですよね。

委員：もちろんそうですし、今現在現地に問い合わせ中というのもあります。

委員：それでないと本当にスケジュールに間に合いません。

委員：スケジュールは、私の方も頭の中にあります。これはたぶん事務局の考えとは矛盾していません。ただ、時間がないから、不安だから決めてしまおうという、この限られた情報で決めてしまおうというのは、私は姉妹都市を決めるには違うと思います。

委員：仰る通りですが、27年度、各種団体の代表者が集まって、1年間議論してきて、こういう参考資料の結果が1枚できた訳です。今回、委員の前向きなご提案というのは理解できるのですが、ただ、これが本当に市民の議論なのかどうなのか。失礼な話ですが、もしかしたら、委員の先走りなのかもしれません。私たちのように、1年間議論してきた市民会議のメンバーからすると、過去の会議の中身を否定しているようなきらいを少し感じてしまいます。

委員：否定していますか。それは少し意外なご意見なのですが。

委員：もしこうして議論が進まないのでしたら、1回本会議に持って行くぐらいでも良いと思います。どうしてもこの作業部会では、残念ながら、委員のお二人がご意見を言って、我々が聞くような立場での体制しかとれていません。これでは作業部会として本当に良いのかと、私は本当に思っています。

部会長：先ほどの委員のお話は、作業部会というのはもう少し検討を深めた中で決めたいというご意見ですよ。

委員：違います。12月から1月にかけて海外視察をしなければいけなくて、それまでに行く場所を絞り、しかも相手とコンタクトをして準備をしなければいけないということは、分かっています。

今のリストの情報は、はっきり言って非常に薄っぺらなものですから、これを見て、よっぽどこの条件に合わないところは外しましょうという絞り込みはできます。

委員：前回の会議の中で、中身を精査するには、次回の会議までの時間があれば十分だというお話をされていましたが。

委員：調査で在外公館に行くためにはレターを持って行かなければいけません。そのレターについては、素案を作って事務局に提案したのですが、その答えをまだいただけていません。「この人はこういう委員だから、あなたのところに行って、調査をしますので、是非ご協力ください」という一般的なレターですが、それはどうなっていますか。

柴田課長：ご提案をいただいて、必要があったら、事務局の職員も一緒について行きますというお話をしています。

委員：レターについてのお返事を来るのを、私はずっと待っていたのです。もしレターを作成していただけてあれば、先週でも時間があつたので、公館に出かけて、突っ込んだ状況も情報収集もできました。

相手方の意向も分からない、可能性が有るかないかという状況では議論が難しいという話を今までしてきました。

委員：相手方の気持ちだけではなくて、キーパーソンがいるとか、交流実績があるとか、そういうところから絞り込んでいかないといけないと思います。やみくもに候補地を挙げて、その公館から情報を取ってくるという話ではないと思います。

委員：そのような話は全くしていません。このリストに出ている都市と言うのは、それぞれ提案された方がおられて、きっかけが有って、どういう状況かというのはあるはずですよ。

委員：ここでの議論は、それで十分ではないですか。その情報をいただいて、我々が議論するので十分ではないですか。この俎上に載ったということは、それなりの情報があるから載っているわけですので、そこまでの情報を下さいということです。

委員：そういう情報でしたら、このリストに載っていると思います。ただ、一番大事なものは、相手先の姉妹都市の意思のところではないのでしょうか。

委員：それはキーパーソンの方が確認は取れないのですか。

委員：確認を今してもらっているところもあります。キーパーソンが現地にいるところもあります。そこにはメールを送ったりしています。ただ座っているわけではないのです。

委員：この議論は、フォスターシティ市の他に、どれくらい現実的なものがあるかというのが、

この作業部会の重要なポイントだと思いますので、今日絞り込みをするという話は賛成ですけどね。

委員：絞り込みをして構わないと思います。いくつまで絞り込むかという所です。

委員：それでは進めましょう。

部長：それはまたそれで、絞り込みが終わった後に検討すれば良いのではないですか。

委員：分かりました。どうなるかやってみましょう。

部長：先ほどお話ししましたように、治安ですとか、子どもに有益なところであるか、衛生状態はどうか、距離や時間はどうかという事で、絞り込んでいきたいと思います。また、委員が仰ったように、キーパーソンがいるか否かによっても、かなり違ってくと思います。その辺も加味しながら、一つずつ絞り込んでいきたいと思います。いかがですか。よろしいでしょうか。

委員：はい。

【1】タイ王国：アユタヤ市

【2】モンゴル国：ウランバートル市

【3】アメリカ合衆国 オレゴン州：ユージン市

部長：それでは、タイ王国のアユタヤ市について、事務局の方で説明をお願いします。

柴田課長：〔資料に基づき、タイ王国アユタヤ市について説明〕

部長：皆様いかがでしょうか。

委員：タイとモンゴルとアメリカ合衆国のユージン市の3都市については、教育委員会が主体で実施ということなのですが、私が教育委員を務めて今年で6年目となりますが、この間、この3つの都市との交流実績は一切出てきていません。それ以前に、個人的な教育委員会の繋がりでの交流をしたとの情報は得ていますが、今は交流は途絶えています。

部長：ご説明あるように、いかがでしょうか。候補地としてあげられるかどうかということですが、候補地として「○」「×」で言うと、「×」でよろしいですかね。

委員：いいと思います。

部長：タイ王国とモンゴルと、アメリカ合衆国オレゴン州のユージン市は、候補地としては×ということにします。

〔「はい」とのご発言多数〕

【4】アメリカ合衆国 バーモント州：バーリントン市

部長：続きまして、アメリカ合衆国 バーモント州 バーリントン市について、事務局の方で説明をお願いします。

柴田課長：〔資料に基づき、アメリカ合衆国 バーモント州 バーリントン市について説明〕

部長：皆様いかがでしょうか。

委員：こちらは稲城国際交流の会さんが詳しいのではないのでしょうか。

委員：個人的にはお付き合いをしてくいて、まだ今も継続していますが、姉妹都市関係という形が良いかどうか、どこまでやる必要があるかということはありません。オレゴン州の件についても同じなのですが、教育委員会がたくさん交流をしてくれましたけど、どちらも、現

状では、特に継続していく必要はないのではないかと思います。

部 会 長：こちらは候補地としないということによろしでしょうか。

〔「はい」とのご発言多数〕

〔石橋委員がご到着〕

【5】中華人民共和国 四川省：稲城県

部 会 長：続きまして、中華人民共和国 四川省 稲城県について、事務局より説明をお願いします。

柴田課長：〔資料に基づき、中華人民共和国 四川省 稲城県について説明〕

部 会 長：この稲城県については、昨年の会議の中でも委員からお話いただいていた、今は交流がないということでした。

委 員：交流はしたいと思っておりますが、現時点では、特にリストに挙げる必要はないと思います。

部 会 長：委員のご説明にもあったように、稲城県につきましては、候補地として適当ではないという形によろしいでしょうか。

〔「はい」とのご発言多数〕

【6】中華人民共和国 山東省：青島市

部 会 長：続きまして、中華人民共和国 山東省 青島市について、事務局より説明をお願いします。

柴田課長：〔資料に基づき、中華人民共和国 山東省 青島市について説明〕

部 会 長：人口770万人ということですからかなり大きい都市です。皆様いかがでしょうか。提案者がICカレッジの方ということですので、細かい質問をしても分からないですよ。

柴田課長：分かる情報は全てこちらの資料に記載しています。ICカレッジの方から挙げられた都市については、アンケートでいただいた情報と、さらに事務局で調べた情報、そして、ご提案者に追加の聞き取りを行って得た情報までの全てをここに載せてご提示しています。

委 員：人口が770万人として非常に大きい都市なので、一見して稲城市とのバランスが随分違うと思うのですが、青島市の中のある部分では、稲城市に適当なユニットがあって、そこと交流するのであれば、アンバランス感はなくなります。距離からすると、稲城から近くで非常に候補としても良さそうな感じがします。向うが関心を持っているかどうかは別として、今これを駄目と切ってしまうのは、もったいないと思います。

柴田課長：青島市はかなり規模が大きく、人口770万人というと、姉妹都市としてバランスが悪いのですが、委員が仰った通り、青島市には、この下に行政区画があります。しかし、アンケートでICカレッジの方が挙げていただいた都市については、追加の聞き取りをしても、行政区というお話はなく、細かく分かれることなく、青島市というくくりの中でお返事をいただいているところであります。

部 会 長：委員のお話と、事務局のお話も合わせていくと、候補地としては挙げられないような気がするのですが、これは候補地としない形によろしいですか。

〔「はい」とのご発言多数〕

【7】中華人民共和国：香港

部 会 長：続きまして、香港について説明をお願いします。

柴田課長：〔資料に基づき、中華人民共和国 香港について説明〕

部 会 長：香港も青島市と同じように、人口が相当多く、移動時間についてはあまりかかりません。まだ、イギリスの植民地から解放された後、本国との摩擦があるところですが、皆様いかがでしょうか。

委 員：絞り込む時に大事なことは、我々の目的は姉妹都市を結ぼうということです。姉妹都市というのは何か共通項とか、規模が似ているとか、同じ観光資源や、同じ歴史を持つとか、そういう何か共通項がないといけません。一部の人の、あそこが良いのではないかという都市がバラバラ挙がってきて、全く共通項がないと良いか悪いかは判断し難いです。本当は、行政の方から姉妹都市のコンセプトが出ていて、それに合致するかしないかで判断することができるのですが。

その切り口で言いますと、稲城市は8万人くらいの人口ですから、10万人前後くらいの人口が一つの基準として、また、産業をキーワードで考えるのかなど、そういうある程度のキーワードで選ばないといけないと思います。今まで「×」を付けたところは自分の感覚から見ても「×」ですが、これから後の色々なところを絞り込んでいくに当たりましては、そういう基準で判断すると良いと思います。

柴田課長：確かに行政の方から、ビジョンをお示しはしていません。やはり、去年、27年度4回の市民会議でゼロベースから皆様に徐々に議論を進めていただいたという部分があります。その結果が、参考資料でお配りしている全4回の議論の整理表になります。市が持っている条件と言う部分では、皆様から色々ご意見をいただいたものを集約したものと合致するような都市が良いと考えています。こちらの候補地の条件という部分では、規模ですとか、距離、治安、稲城から近いところであったり、また、逆に衛生状態が悪いとか、環境が厳しいとか、文明が遅れているとかそういうことを心配していたら何もできませんというご意見があったところです。ただやはり、規模、距離、治安、近さというご意見も多くいただいております。青少年の健全育成ですとか、教育交流の話、英語圏の話、過去の交流実績やきっかけなど、ご意見の多かったところが一つポイントになるのかと考えています。確かに、今回新たにリストに加わる都市というのは、今までご議論をいただいてきた都市とは少し一線を画す都市ではあります。1ページ目に載っていた都市というのは、27年度の議論の中で何度も出てきた都市であります。何故出てきたかという、稲城市と何らかの交流があったから出てきており、一方、2ページ以降、青島市以降は、そういったものをある意味度外視して作業部会の段階から、アンケートであったり、ご提案で追加された都市になるので、統一性はないと思います。今お話したような27年度での議論で出てきたご意見、ポイントは、頭の片隅に置いていただいて、参考資料の情報を見ていただいて、候補地として「○」か「×」を付けていただければと思います。

部 会 長：そういう中でいきますと、候補地としては、英語圏が良いのではないかと、交換留学を考えたとき、治安が整っているとか、そういう事も含めた中で結論を出すという事になりますね。

柴田課長：例えば、先ほどの青島市の部分で言いますと、稲城から近いところが良いという意見には合致しています。しかし、青島市は英語圏ではありません。また、規模という点でも、同じくらいの規模が良いという部分からは外れてしまっています。そういった部分を総合的

に見ていただいて、ご判断いただけるとありがたいと思います。

部 会 長：委員、よろしいでしょうか。

委 員：もちろんです。やはり基準を持って判断しないといけないので。

部 会 長：香港につきましては、規模が大き過ぎるという事を考えると、候補地としないことでよろしいでしょうか。

〔「はい」とのご発言多数〕

【8】イギリス ウェールズ：スウォンジー市

部 会 長：続きまして、イギリス スウォンジー市について説明をお願いします。

柴田課長：〔資料に基づき、イギリス ウェールズ スウォンジー市について説明〕

委 員：こちらは私自身が1978年から80年に留学していたところで、私が推薦した都市です。渡航経路で時間がかかるのは、イギリスでは止むを得ないところです。英語圏というのが昨年の議論の中で出てきていましたので、英語というとアメリカ大陸か、イギリスか、もしくはニュージーランド、豪州の地域にしかなく、二次的な英語はインドなどたくさんありますが、是非、イギリスから何か1つ出したいと思い、提案しました。ちなみに、ウェールズには日本企業400社程度が行っていきまして、大きなところではソニーやパナソニックなどがあり、私自身も調査をしたことがありまして、親しみを感じているところです。有名な国際的の大学もあり、それに従うハイスクールやエレメンタルスクールなど、そういう教育体系は非常にイギリス的なものを全て備えていて、色々交流をやるには持ってこいではないかと思えます。ただ、ヨーロッパは全部そうなのですが、時間が長くかかるという点が気になるころではあります。スケールの的には23万人と、少し大きいですが、釣り合わないことはありません。大変自然が綺麗で、地域に人が固まっていますから、海岸や、ヒースの丘のような、イギリスでも指折りのところだと思いますので、良い相手になると思っています。キーパーソンは私自身がなっても良いです。事務局でイントロダクションレターの作成を進めていただければ、すぐにイギリス大使館のウェールズ事務所に話をしようと思っています。

部 会 長：皆様いかがでしょうか。

委 員：反対する理由はないです。

委 員：残したら良いのではないですか。

委 員：平均気温が10℃なのですが、結構寒いのでしょうか。

委 員：緯度はかなり高く、樺太と同じくらいですが、暖流のメキシコ暖流が来ているため、そこまで寒くはありません。雪も年に1、2度しか降りません。日本人の留学生もかなりいます。

部 会 長：それでは、「○」「×」で言うと、「○」にします。

【9】ハンガリー：センテンドレ市

部 会 長：続きまして、ハンガリー センテンドレ市について説明をお願いします。

柴田課長：〔資料に基づき、ハンガリー センテンドレ市について説明〕

委 員：これも、私の個人的な滞在経験からの推薦した都市になります。川という視点で言うと、

多摩川とドナウ川という共通点があり、首都から非常に近いという点でも、東京都心と稲城、ブタペストとセンテンドレという関係で、似た共通点があると考えられると思います。非常に小さな町で、人口は2万4000人です。しかし、観光客がたくさん来ていまして、将来、稲城がどうやって人を集めて観光で振興していくかという1つのモデルになるかもしれないということもあります。それから、時間がかかります。また、言語は英語ではありません。ハンガリー語、マジャール語なのですが、ヨーロッパの国の殆どがそうであるように、殆どの人がバイリンガルです。昔はドイツ語、ある時期はロシア語で、今の若い人は殆ど英語を話します。

また、ハンガリーは秋田県と国自身が大変仲よくしています。センテンドレ市は姉妹都市はないのですが、秋田県の5つか6つくらいの都市は、ハンガリーの都市と姉妹都市を結んでいて、秋田県自身はハンガリーと科学技術協定契約を結んでいます。何故、秋田県がハンガリーとの交流を一生懸命やるかということ、ハンガリー人にはものすごく優秀な人がいるという、人材に目を付けてということですが、そういったこともあり、日本との関係が非常に強い国でもあります。

部 会 長：渡航経路でかなり乗継がありますね。

委 員：乗継は1回です。直行便はありません。ちなみにここには親しく住んでいる人がいますので、詳細な情報が必要なら、その方に連絡して現実的な話を取ろうかとは思っています。

部 会 長：いかがですか。

委 員：外して良いのではないのでしょうか。

委 員：英語圏でないということと、距離が遠いということですので。

部 会 長：それでは、候補地としないこととします。

【10】アメリカ合衆国 オハイオ州：ガリア郡

部 会 長：続きまして、アメリカ合衆国 オハイオ州 ガリア郡について説明をお願いします。

柴田課長：〔資料に基づき、アメリカ合衆国 オハイオ州 ガリア郡について説明〕

部 会 長：これにつきましては、人口3万1000人、アメリカ合衆国、英語圏ということは良いのですが、経路は乗継があり、18時間かかるということと、今までの交流実績がないということですので、こちらも候補から外してよろしいでしょうか。

委 員：補足させていただきますと、こちらは、稲城国際交流の会の会員が、実際に留学していた経験があり、その方から提案をいただいたものになります。今でもここと連絡を取っているということなので、情報を入手することが可能です。ただ、非常に田舎でして、古き良いアメリカといえますか、何も無い田舎です。姉妹都市はたぶんないと思いますので、そういう意味では新たな関係が作れるのかと思います。弱点は遠い所であると思います。

部 会 長：外してよろしいでしょうか。

〔「はい」とのご発言多数〕

【11】オーストラリア クイーンズランド州：ケアンズ市

部 会 長：続きまして、オーストラリア クイーンズランド州 ケアンズ市について説明をお願いします。

柴田課長：〔資料に基づき、オーストラリア クイーンズランド州 ケアンズ市について説明〕

部会長：人口 15 万人で時間は 10 時間、キーパーソンは不明ということですが、皆様いかがでしょうか。

委員：こちらは、ケアンズ市で日本語学校を立ち上げて 20 年やっている女性の方がいらっしゃるの、その方を通じて、メールのやり取りで情報を集めているところです。距離的にも大変良いですし、直行便もあります。また、オーストラリアは、英語以外に色々な国の言葉を小学校から習わせるという事がありまして、特に日本語を大変大事にしています。そういう関係で、日本語を広めるという事で、その女性の方は行かれたのですが、ここにその方の学校の経験記がありますから、後でご関心があれば見ていただきたいと思います。

ケアンズ市は、グレートバリアリーフの玄関口で大変賑わう観光都市で、日本人もかなり住んでいます。クイーンズランド州北の玄関にもなっていて、日本との時差がほとんどありませんので、色々と交流をやるには便利ではないかと思います。私の視点からすると、ある意味、良い事づくめで、極端なことを言うと、フォスターシティ市と比べても引けを取らない都市だと思います。唯一気になるのが、もう既に日本の栃木県小山市と徳島県美波町と姉妹都市提携をしているということで、特に小山市との関係は非常に強く、毎年交流をやっていて、何十人の学生が行ったりきたりして、これに加えて稲城が入るというのは少し難しい可能性があるということです。そういう意味では、良い都市はもう売れてしまっているという問題があります。ただ、ネガティブではない市です。オーストラリアに関連して、情報をさらに収集することは可能です。

部会長：皆様いかがでしょうか。

委員：残して良いのではないのでしょうか。

部会長：相手がどういう風に受け取るかは別にして、「○」で良いのでしょうか。

委員：やはり小山市との関係が気になります。

委員：小山市との関係は小山市のホームページにかなり詳しく出ているので、全部調べてありますが、平成 15 年くらいから正式に姉妹都市を結んで、10 年以上毎年行ったり来たりしています。

部会長：委員は残して良いというご意見ですが、いかがですか。

委員：とりあえず残していただいて良いです。

委員：条件整備をしていただければ良いです。

委員：私も良いです。

部会長：それでは候補として残します。

【12】アメリカ合衆国 ハワイ州：ホノルル市 ワヒアワ地区

部会長：続きまして、アメリカ合衆国 ハワイ州 ホノルル市 ワヒアワ地区について説明をお願いします。

柴田課長：〔資料に基づき、アメリカ合衆国 ハワイ州 ホノルル市 ワヒアワ地区について説明〕

委員：補足説明させていただきます。稲城国際交流の会の会員で奥様がハワイ出身の方がいて、時間的に近く、良さそうな可能性のあるところということでご提案いただきました。この

ワヒアワ地区は、実際にはワヒアワ町になります。ただ、少し規模が小さいです。もう少し大きなユニットは無いかと調べていますが、ホノルルはオアフ島の全域になり、市域というのが島の南の地域になり、北の方は郡に分かれていて、その郡の中の第2群の中の一部がワヒアワ地区になっています。ホノルルシティカウンスルが議会を含めてオアフ島を管轄しています。第2群というのは、規模的にもバランスが取れて良いのではないかと今調査はしているところです。もしハワイですと、米国本土よりも近いですし、日系人がアジア系を含めて非常に多く、だいたい人口の半分くらいと、フォスターシティ市と同じような人種の構成です。

柴田課長：フォスターシティ市は白人は45.5%、アジア系が45%です。

委員：ワヒアワ地区はアジア系は45%くらいなのですが、白人系は少なくとも10数パーセント、残りは混血となっています。姉妹都市はホノルル市は結構あり、広島とか、日本の都市もいくつか入っていますが、それよりも小さい地区を対象としたところは殆どないのではないかと思います。このワヒアワ町は今のところありません。ですから、持ちかければ可能性はあるのではないかと思います。

部会長：皆様いかがでしょうか。

委員：いらないのではないのでしょうか。

部会長：私としても、あまり挙げなくても良いのではないかと思います。

委員：挙げない理由としては、何になるのでしょうか。

部会長：相手として人口が少ないので、規模的にどのくらいの交流ができるのかというところです。

委員：この条件で考えると、人口1万8千人というのを判断基準で見ざる得ません。少し稲城とのバランスと言う点があり、ここでしか判断できないです。

委員：英語圏で、距離も近い、大学もあり、ホノルルと間近です。もし、規模が問題であるというのであれば、今、この町を含む郡を対象にできないかというのも検討しているところなので、相手と話をして確認していくこともします。

委員：どのような交流ができるのでしょうか。

委員：何だってできます。子どもを行き来するのも安全ですし、大学に留学することもできますし、パイナップル農園が多いので、梨とパイナップルというのは合わないかもしれませんが、資料4に挙げている交流でできない物は無いと思います。

部会長：いかがでしょうか。ここで決を採るとするのは本当は嫌なのですが、候補とすることに賛成の方、挙手をお願いします。

〔挙手1人〕

部会長：候補地としないこととします。

【13】フィリピン：セブ市

部会長：続きまして、フィリピン セブ市について説明をお願いします。

柴田課長：〔資料に基づき、フィリピン セブ市について説明〕

部会長：外務省の危険情報がレベル1であるということですが、いかがでしょうか。

委員：まず危険情報のことでお話します。フィリピンだけでなく、東南アジアはだいたいレベル1になります。このレベル1をどう解釈するかという事ですが、「十分注意してください

」という形で、実際には過去にトラブルがあったという意味で、長期的な形で書かれている情報になります。フィリピンのミンダナオ島については、過去にトラブルがあったということで、高いレベルになっていますが、私が提案している都市はルソン島の都市であり、全く問題はないと聞いています。

セブ市については、乗継のある経路で書かれていますが、実際には全日空系のLCCで直行便がありまして、12月からあるものもありますけど、毎日一往復運航しており、合計移動時間は6時間少しくらいになります。そんなような関係で、時間的には短いところだと思います。

フィリピンの都市を提案することで、何を狙ったかと言いますと、人口が多く、経済成長が見込まれる国であるということで、いわゆる人材関係の面で、将来、日本で介護士や看護師の人材を確保するためにも、インドネシアやフィリピンあたりと交流した方が良いのではないかということも含めて考えました。また、日本の技術やノウハウが発揮できるとか、色々な側面があると思ひ、フィリピンやベトナム、タイなどはどうかと考えました。

セブ市については、昔の都があったところということもあり、人口が多いです。観光地として有名なところで、治安は全く問題がないと言われていています。昨年度の市民会議で英語圏という意見が多くあったのですが、いわゆる英語圏に行って英語を勉強するよりも、フィリピンのような二次的な、ネイティブでない国で勉強をする方が、金額的には安いですし、さらに、親切に教えてくれることもあり、上達が早いと言われていています。対日感情も非常に良いということで、日本との姉妹都市提携を希望しているリストということで外務省の情報にあったので、日本では少しレベルがどうかということはあると思いますが、リストアップしました。

委員：キーパーソンの有無や、過去の交流実績やきっかけがあつて、これらの都市が挙がってきたのでしょうか。

委員：キーパーソンは特にいません。そういう意味での実績は無いのですが、外務省の情報で、日本とお友達になりたいという希望があるので、リストアップして提案しました。なお、物価は日本の4分の1くらいです。

部会長：皆様いかがでしょうか。候補地として賛成の方、挙手をお願いします。

〔挙手1人〕

部会長：候補地としないこととします。

委員：フィリピンの4つのご提案なのですが、やはり市民レベルの目線からすると、いくら危険情報のレベル1が危険ではないと言われても、危険情報でレベル1と出されてしまっている以上は、選択肢としては外した方が良いのではないかと思います。

部会長：折角、委員がご提案してくださっているのですが、私も姉妹都市としては、あまり進められないとは思ひます。

委員：私はセブ市によく行ってまして、仕事で行ったこともあります。JICA（国際協力機構）が関係してプロジェクトも進めて、ある意味で開発のモデルになっているようなところもあります。ご存知の通り、世界的にも知られた観光都市です。

日本の方々には、途上国は危険で、あまり学ぶこともないと考えがちですが、私の経験では、全くそういうことはありません。英語を学ぶのであれば、フィリピンなどは、アメリカ

カよりも良いくらいに思えます。さらに、フィリピンの中でもセブ市というのは治安がとても良くて、資料ではフィリピンのミンダナオ島の危険情報を取って書いていますが、ミンダナオ島とは全然違う島でありますし、ミンダナオ島の状況がセブに影響することは全くありません。

レベル1が不安だという気持ちも分かりますが、私はフィリピンの中をかなり細かく歩いて回りましたが、それはそのレベルでの話だという事です。マニラにはアジア開発銀行の本部もあります。我々の仲間のたくさんの方が、実際に向うに行って、住んで、帰ってきています。フィリピンだから駄目というのは、とても残念な発想だと感じます。

委員：それはよく分かるのですが、市民目線で考えると。

委員：私も市民です。

委員：市民はいわゆる国際交流に精通した方々ばかりではないわけです。その方々を含めてどのくらい説得力のある説明ができるかということです。

委員：実際にフィリピンから稲城に来ている人の話で、是非姉妹都市をやって欲しいという話もあります。もはや先進国だけが、日本の経済活動やその他の分野での関わりの全てではないということがあるので、むしろ、先進国ではない国とどうにかやっていかないと駄目だという意味で東南アジアの都市を提案しました。その中でも、昨年度から意見のあった英語だとか、スカイプができるとか、そういう理由も考えた上で、都市は選んでいます。後進国だからというのではなく、逆に、後進国だからそこを選ぶというのが今回の両輪の候補地という視点だと思います。

フォスターシティ市の件も色々調べたのですが、高級住宅地であり、お金持ちでないといけないという、逆に言うと特殊な場所だと思います。アメリカ国内でも、他の都市と比較すればどうかというのは別問題としてありますが、やはり両輪として、先進国と共に、後進国とも交流をやって行くというのは、やはり必要になってくると思っています。そうなったときに、後進国から具体的な地域というように考えると、危険情報レベル1というのは、だいたい何処でも引っ掛かっては来てしまいます。例えば、安倍首相がアフリカに行って経済交流をしていこうとか、そこまではいかないのですが、そういう考えで、東南アジアは、欠かすことができない状況にあると考えます。

委員：本当にこういう選択が市民目線の総意なのかという思いがします。外すというのは非常に残念ですが。

委員：市民レベルだからこそ、挙げたものになります。例えば、小学校で授業をやっている、「海外でどういう国を知っていますか」と聞くと、アメリカぐらいしか知らない状況です。今の日本はどうやって生きているか、アメリカだけでなく、全世界と商売をしているということも、教育としてもやっていく必要があると思っています。

委員：ご意見としては良く分かります。

部長：セブ市につきましては挙手をお願いしましたが、挙手1名でしたので、「×」ということではよろしいでしょうか。

〔「はい」とのご発言あり〕

【14】フィリピン：カランバ市

部 会 長：続きまして、フィリピン カランバ市について説明をお願いします。

柴田課長：〔資料に基づき、フィリピン カランバ市について説明〕

委 員：移動時間が17時間というのは誤りではないでしょうか。バスの乗継時間も他の都市の表記と合わせると不要だと思います。

井田係長：乗継時間の記載は誤りで、合計9時間に修正をお願いいたします。

委 員：カランバ市は、マニラの南の方のラグナ湖に面した所にあり、私も行ったこともあります。マニラ首都圏から離れた、工業団地もあるのですが、比較的郊外の都市という感じで、東京で言えば、多摩ニュータウンのような印象のところ。大きな湖が片方にあり、フォスターシティ市の海に面したというのと似ていると思いますが、環境的にはとても良いところ。稲城との類似性と言う点では、大都市から少し離れた郊外の工業団地もあるリゾート地という感じで考えると、フィリピンの中で4つの都市が提案されていますが、その中では良いところかと思えます。

部 会 長：皆様いかがでしょうか。

委 員：カランバ市は、5か所と姉妹都市提携をしていますが、まだ日本の都市とは姉妹都市提携をしていません。もしカランバ市と姉妹都市提携をすれば、カランバ市と既に提携をしている5か所とも関係を築き、活かすこともできると考えています。

また、戦争の歴史というところもありますが、そういう歴史もあったのだけれども、向うから姉妹都市を希望しているというところがあります。

部 会 長：カランバ市を候補地として賛成の方、挙手をお願いします。

〔挙手2人〕

部 会 長：候補としないこととします。

【15】フィリピン：パンガシナン州バニ町

部 会 長：続きまして、フィリピン パンガシナン州 バニ町について説明をお願いします。

柴田課長：〔資料に基づき、フィリピン パンガシナン州 バニ町について説明〕

部 会 長：皆様いかがでしょうか。候補地として賛成の方、挙手をお願いします。

〔挙手1人〕

部 会 長：候補としないこととします。

【16】フィリピン：ラオアグ市

部 会 長：続きまして、フィリピン ラオアグ市について説明をお願いします。

柴田課長：〔資料に基づき、フィリピン ラオアグ市について説明〕

部 会 長：皆様いかがでしょうか。候補地として賛成の方、挙手をお願いします。

〔挙手1人〕

部 会 長：候補としないこととします。

【17】ベトナム社会主義共和国：ベンチェ市

部 会 長：続きまして、ベトナム社会主義共和国 ベンチェ市について説明をお願いします。

柴田課長：〔資料に基づき、ベトナム社会主義共和国 ベンチェ市について説明〕

部 会 長：皆様いかがでしょうか。

委 員：ベトナムから稲城に来ているメンバーから、こことは是非やって欲しいという意見があったので、リストアップしました。

部 会 長：候補地として賛成の方、挙手をお願いします。

〔挙手1人〕

部 会 長：候補としないこととします。

【18】トルコ：マルマリス市

部 会 長：続きまして、トルコ マルマリス市について説明をお願いします。

柴田課長：〔資料に基づき、トルコ マルマリス市について説明〕

部 会 長：皆様いかがでしょうか。渡航時間が33時間となっていて、一日以上になっています。

委 員：資料では1泊するスケジュールになっているので、こういう時間になっています。

部 会 長：直行便はないのですか。

委 員：直行便はありません。実際には色々な行き方があるのですが、必ずしも一泊がなくてもいけると思います。

井田係長：今回資料に載せている渡航経路については、日本航空のホームページで調べられる一般的な経路を載せています。夜中に空港に着くということになっていますので、一泊し、翌朝にバスを出発するとして、移動時間を書いています。ご指摘の通り、経路については、他の経路もあるとは思いますが、今回記載しているのが、一般的な経路としてお調べした経路となっています。

部 会 長：人口8万2千人で、危険レベルは1ということですか。

委 員：外務省の危険情報レベルは正しくは「なし」です。ただ、シリアとかイラクとの国境地帯は危険レベルはありますが、実際にトルコの西側はゼロになっています。

委 員：たしかにレベル1ではないですね。

委 員：治安の問題はありますね。

武藤部長：トルコはこの前、クーデター未遂もありました。

部 会 長：候補地として賛成の方、挙手をお願いします。

〔挙手1人〕

部 会 長：候補としないこととします。

【19】トルコ：メジトリ市

部 会 長：続きまして、トルコ メジトリ市について説明をお願いします。

柴田課長：〔資料に基づき、トルコ メジトリ市について説明〕

部 会 長：皆様いかがでしょうか。候補地として賛成の方、挙手をお願いします。

〔挙手1人〕

部 会 長：候補としないこととします。

【20】トルコ：ボール市

部 会 長：続きまして、トルコ ボール市について説明をお願いします。

柴田課長：〔資料に基づき、トルコ ボール市について説明〕

部会長：皆様いかがでしょうか。

委員：渡航経路については、資料の時間より短く、実際には24時間くらいになります。

部会長：候補地として賛成の方、挙手をお願いします。

〔挙手1人〕

部会長：候補としないこととします。

部会長：候補地としては、アメリカ合衆国フォスターシティ市と、イギリスのスウォンジー市、オーストラリアのケアンズ市、この3都市を候補地として決めたいと思います。何かご意見、ご質問ありますでしょうか。

委員：前回の作業部会で、委員から、候補地の提案をいただけるというお話があったのですが、いかがでしたでしょうか。

委員：オーストラリアなどが良いかと、自分なりに調べてみたのですが、やはり、向こうからオファーのあるフォスターシティ市が一番かと思いました。

部会長：他にご意見ありますでしょうか。

〔意見なし〕

【議題2】フォスターシティ市との交流事業について

部会長：議題2になるのですが、時間が9時15分を過ぎております。事務局いかがでしょうか。

柴田課長：議題2については、次回の第4回の作業部会でご議論いただければと考えていますので、議題の3に進んでいただければと思います。

武藤部長：資料については、次回までにお読みいただければと思います。

柴田課長：今回、3つの都市に絞り込まれていますので、第4回の作業部会で、交流事業の検討をしていただき、その結果をもって市民会議に戻して行くような形を取らせていただきたいと思います。

委員：資料4は、フォスターシティ市の交流事業例と書いてありますが、これは、仮定の上でこのような交流をやりたいという提案を、こちらから提案をするという感じでしょうか。

武藤部長：可能性があるものや、既に向こうからのご意思が示されているものと両方あります。最終的にはここの事業内容についても、先方側に可能性があるのかどうかを確認しないとけない部分ではあります。ただし、ここに書いてある通り、例えば、異文化交流であれば、それほど難しくはなく、教育交流やスポーツ交流については、向こうの意思は確認されています。後は、その他の部分については、可能性の部分を示している所です。

委員：この交流事業例の中には、今までにやったアンケート調査に書いてあったものも反映されていますか。

井田係長：アンケート調査で出てきたものを含め、また、昨年度からの市民会議でいただいたご意見などを踏まえて、フォスターシティ市であれば実施できる可能性のある交流事業の一覧になります。

委員：こういうものが実際にやられたという実績ではないということですね。本当はこれができ

るかどうかを確認しないといけません。

武藤部長：最終的には確認していく必要はあります。

部会長：他にご意見ありますでしょうか。

〔意見なし〕

【議題3】 次回の開催について

部会長：それでは、議題の3『次回の開催について』、事務局より説明をお願いします。

井田係長：次回、第4回の作業部会は、10月中旬での開催を予定しています。

<日程調整>

それでは、10月13日（木）夜7時からの開催として予定をさせていただきます。正式な通知は、後日、改めてお送りさせていただきます。なお、ご都合がつかなくなった場合などは、事務局まで、お電話でご連絡をいただければと思います。よろしく願いいたします。

部会長：それでは、これで第3回稲城市海外姉妹都市検討市民会議作業部会を終了いたします。